



CITIZEN

2022年度（2023年3月期）
第3四半期決算説明会

シチズン時計株式会社
2023年2月13日

2022年度第3四半期業績概要

広報IR担当の古川です。

2022年度第3四半期決算につきまして、ご説明いたします。

2022年度第3四半期累計（4-12月）実績

- 主力の時計事業を中心に売り上げを伸ばし、増収増益
- 時計事業：完成品が欧米市場を中心に第3四半期（10-12月期）も増収継続
- 工作機械事業：部材の調達環境が改善に向かい、生産出荷が進み増収

自己株式の取得

- 株主還元の充実と資本効率の向上を図る
- 取得株式総数：75,000,000株（上限）
取得株式総額：400億円（上限）
取得期間：2023年2月16日～2024年2月15日

2022年度通期業績予想

- 業績予想の変更なし

まず、今回の決算の主なポイントについてご説明します。

第3四半期累計期間の実績は、主力の時計事業を中心に売り上げを伸ばし、売上高は前年比6.8%増、営業利益は前年比7.1%増と、増収増益となりました。時計事業は、完成品販売が欧米市場を中心に第3四半期も増収増益となりました。工作機械事業は、部材調達環境が徐々に改善に向かい生産出荷が進捗した結果、増収となりました。

また、コロナ禍に収束の兆しが見える中、中期経営計画で掲げている財務体質の強化も一定程度進めることができたことや、中期経営計画で掲げたROE目標値8%以上を初年度である2022年度に達成の見込みであり、収益性の改善についても一定の成果を得ることができたことから、東証の方針も考慮し、株主還元の充実と資本効率の向上を図るべく、400億円を上限とする自己株式の取得を行うことを決議いたしました。

なお、2022年度通期業績予想につきましては、前回予想から変更せず据え置きとしています。

(単位：億円)	2021年度	2022年度	前年同期比	
	9カ月累計実績	9カ月累計実績	増減額	増減率
売上高	2,156	2,301	+145	+6.8%
営業利益	196	210	+13	+7.1%
営業利益率	9.1%	9.1%	-	-
経常利益	223	244	+21	+9.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	171	196	+25	+14.6%
為替レート	¥111/USD ¥131/EUR	¥135/USD ¥140/EUR		

第3四半期累計期間の損益計算書の概要です。

売上高は2,301億円、営業利益は210億円、営業利益率は9.1%でした。

経常利益は244億円、前年比9.5%増、
親会社株主に帰属する四半期純利益は196億円、前年比14.6%増になりました。

2022年度第3四半期累計（4-12月） セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2021年度	2022年度	前年同期比	
	9カ月累計実績	9カ月累計実績	増減額	増減率
時計事業	1,028	1,173	+144	+14.1%
工作機械事業	600	633	+32	+5.5%
デバイス事業	378	341	▲36	▲9.7%
電子機器他事業	147	152	+4	+3.2%
合計	2,156	2,301	+145	+6.8%
営業利益				
時計事業	103 (10.1%)	157 (13.4%)	+53	+51.8%
工作機械事業	94 (15.7%)	84 (13.3%)	▲9	▲10.3%
デバイス事業	21 (5.6%)	▲1 (▲0.5%)	▲22	-
電子機器他事業	10 (7.2%)	9 (6.4%)	▲0	▲7.8%
消去又は全社	▲33	▲39	▲6	-
合計	196 (9.1%)	210 (9.1%)	+13	+7.1%

5

セグメント別の業績については、

時計事業は、前年比14.1%の増収、51.8%の増益、営業利益率13.4%となり、好調を維持しました。

工作機械事業は、前年比5.5%の増収となったものの、部材コスト増などの影響を受け、前年比10.3%の減益となりました。

デバイス事業は減収減益、電子機器他事業は増収、営業利益は前年並みとなりました。

(単位：億円)	2021年度	2022年度	前年同期比	
	3Q(10-12月)実績	3Q(10-12月)実績	増減額	増減率
売上高	798	824	+26	+3.3%
営業利益	89	86	▲ 2	▲ 3.1%
営業利益率	11.2%	10.5%	-	-
経常利益	102	76	▲ 25	▲ 25.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	70	▲ 2	▲ 3.7%
為替レート	¥113/USD ¥130/EUR	¥144/USD ¥144/EUR		

続いて、第3四半期のみの業績です。

売上高は824億円、前年比3.3%増、
 営業利益は86億円、前年比3.1%減、
 営業利益率は10.5%、
 経常利益は76億円、前年比25.4%減、
 四半期純利益は70億円、前年比3.7%減となりました。

2022年度第3四半期（10-12月） セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2021年度		2022年度	
	3Q(10-12月)実績		3Q(10-12月)実績	
売上高			増減額	増減率
時計事業	407	439	+31	+7.8%
工作機械事業	217	224	+7	+3.2%
デバイス事業	123	112	▲10	▲8.6%
電子機器他事業	49	47	▲1	▲3.9%
合計	798	824	+26	+3.3%
営業利益				
時計事業	55 (13.6%)	69 (15.9%)	+14	+25.5%
工作機械事業	35 (16.2%)	29 (13.0%)	▲6	▲17.3%
デバイス事業	5 (4.8%)	▲1 (▲1.7%)	▲7	-
電子機器他事業	3 (6.4%)	2 (4.9%)	▲0	▲26.8%
消去又は全社	▲10	▲12	▲2	-
合計	89 (11.2%)	86 (10.5%)	▲2	▲3.1%

7

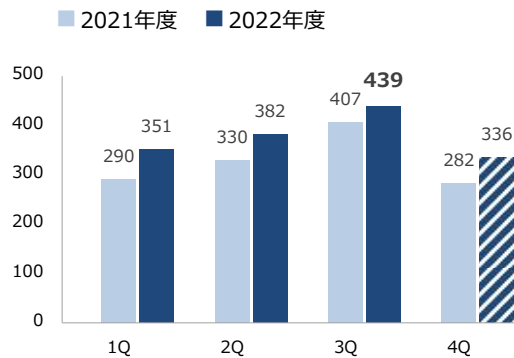
こちらは、セグメント別の第3四半期業績の一覧です。

この後、事業別の概況をご説明します。

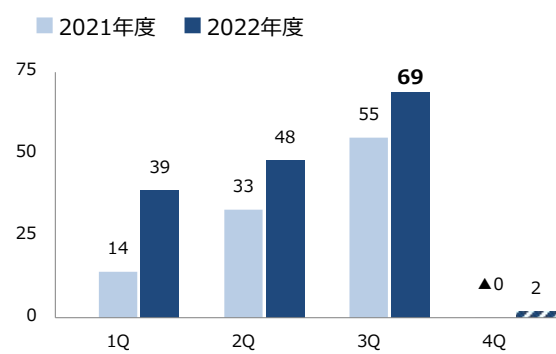
第3四半期（10-12月）

- 完成品販売 国内市場は緩やかな回復傾向が継続したほか、北米・欧州市場で年末商戦が好調に推移し、増収
- ムーブメント販売 機械式・アナログクォーツムーブメントともに回復が弱く、減収

売上高(億円)



営業利益(億円)



まず、時計事業です。

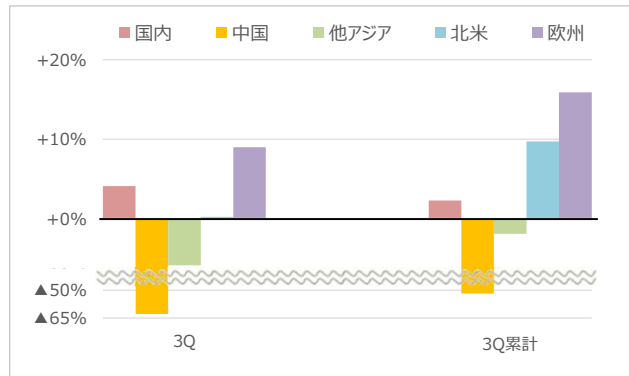
売上高は439億円、前年比7.8%増、営業利益は69億円と前年比25.5%増となりました。

完成品販売については、国内は緩やかな回復傾向が継続したほか、北米・欧州はインフレが加速する中、年末商戦が好調に推移し、増収となりました。

ムーブメント販売は、機械式ムーブメント、アナログクォーツムーブメントともに回復が弱く、減収となりました。

前年同期比増減率 (現地通貨ベース)

※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減
その他の地域はCITIZENブランドのみの増減率



北米、欧州が好調を維持し全体を牽引した一方で、中国が大幅減

- 国内 物価高の影響により消費マインドが高まらない中、新製品等が堅調に推移し増収
- 中国 移動制限は緩和されたものの、感染再拡大を受け消費は戻らず減収
- 他アジア インド、シンガポールなどが回復傾向
- 北米 年末商戦はセルスルー好調を維持
- 欧州 英国、ドイツ、フランス等が好調に推移し増収

地域別の売上高伸び率です。

左側のグラフが第3四半期、右側のグラフが第3四半期累計期間の前年比売上増減を示しています。

左側の第3四半期について、ご説明します。

赤色の国内は、生活必需品を含めた広範な物価高の影響のより消費マインドが高まらない中、新製品や高価格品が堅調に推移し増収となりました。

黄色の中国は、移動制限は緩和されたものの、感染再拡大を受け消費は戻らず減収となりました。

薄緑色のアジア地域は、インド、シンガポールなどが堅調に推移しましたが、全体的な回復は弱く減収となりました。

水色の北米は、セルインは前年並となりましたが、年末商戦のセルスルーが好調な結果となり、1月は補充注文が入り、増収となっています。

薄紫色の欧州も、英国、ドイツ、フランスなどが引き続き好調に推移し、増収となりました。

『The CITIZEN』 メカニカル限定モデル発売

- 自社開発の高精度機械式ムーブメントCaliber 0200を搭載し、日本の甲冑に着想を得たディテールを備える限定モデルを発売
- 発売日 : 2022年12月8日
- 価格 : 希望小売価格968,000円(税込)
- 世界限定90本 特定店限定モデル



シチズンと傘下のManufacture La Joux-Perret S.A.社双方のノウハウを活かし、高精度と審美性を備える機械式ムーブメントCal.0200

10

続いて、時計事業の「プレミアムブランド強化」に向けた取り組みについてご説明します。

12月に発売した『The CITIZEN』メカニカル限定モデルは、高精度機械式ムーブメント Caliber 0200を搭載しており、日本の「甲冑」に着想を得たデザインを文字板やケース など細部に施しています。

大きな反響を得て、既に完売となりました。

『The CITIZEN』、『CAMPANOLA』など、プレミアムブランドの売上高は9カ月累計で、前年比36%増となっています。

『ATTESA』ブランド誕生35周年記念限定モデル第3弾 Blue Universe Collection

- シチズン独自の表面硬化技術「デュラテクトDLC」の特性を維持しつつ、独特の深い青色を実現した新開発の「デュラテクトDLCブルー」を採用
- 『ATTESA』だからこそ実現できた、美しく輝く宇宙をイメージした「Blue Universe Collection」を発売
- 発売日 : 2022年11月10日
- 価格 : 希望小売価格132,000~318,000円(税込)
- 世界限定 1,000~1,900本



ベゼルやバンドの中駒に新開発の「デュラテクトDLCブルー」を配置

11

続いて、『ATTESA』ブランド誕生35周年限定モデル第3弾として発売した、Blue Universe Collectionです。

シチズン独自の表面硬化技術「デュラテクトDLC」の特性を維持しつつ、独特の深い青色を実現した新開発の「デュラテクトDLCブルー」を採用したことが大きな特徴です。

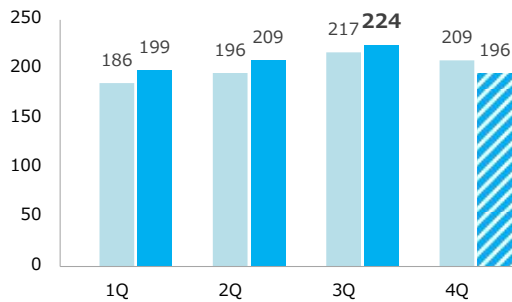
また、『ATTESA』に用いられている独自素材「スーパーチタニウム™」は、民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」に採用されており、チタニウムに新たな魅力を加えています。

第3四半期（10-12月）

- 国内販売 自動車向けが伸び悩んだものの半導体・建機などが堅調に推移し、増収
- 海外販売 欧米市場を中心に旺盛な設備投資需要を維持するも、中国・アジア市場が落ち込み僅かに減収

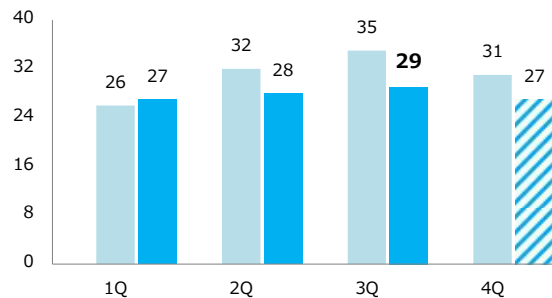
売上高(億円)

■ 2021年度 ■ 2022年度



営業利益(億円)

■ 2021年度 ■ 2022年度



続いて、工作機械事業の概況をご説明します。

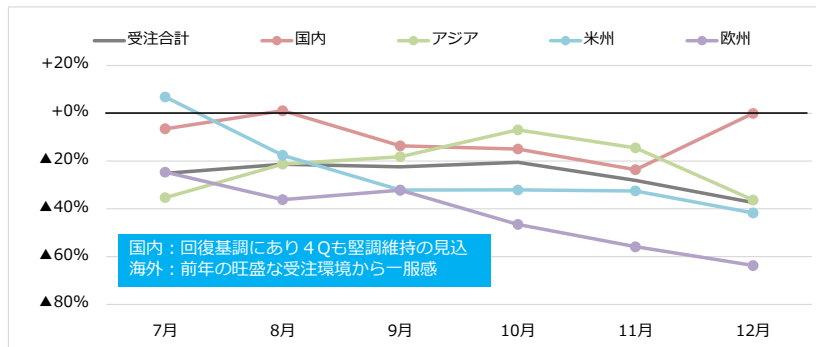
売上高は224億円、前年比3.2%増収となりましたが、部材や輸送費、エネルギーコストの上昇の影響を受け、営業利益は29億円となりました。営業利益率は13.0%です。

国内は、自動車向けが伸び悩むも、半導体・建機など幅広い業種が好調に推移し、増収となりました。

海外は、欧州および米州が旺盛な設備投資需要を維持し増収となったものの、中国、アジア地域の落ち込みを受け、わずかに減収となりました。

部材調達難の状況は徐々に改善傾向にあり、生産額が改善し、売上高は四半期として過去最高水準となりました。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



国内：回復基調にあり4Qも堅調維持の見込
海外：前年の旺盛な受注環境から一服感

■ 3Q前年同期比増減率(四半期受注台数)

- 受注合計 ▲37%
- 国内 +0% 自動車は減産影響等を受け減少も半導体・建機などが下支え
- アジア ▲36% 韓国・インドなどは好調も、中国やその他地域が減少
- 米州 ▲42% 長納期化が継続する中、景気後退懸念の高まりを受け減速
- 欧州 ▲64% 景気後退懸念などから設備投資意欲に一服感

こちらは、地域別の受注状況です。

折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均、前年同月比増減率を示しています。

国内は、自動車関連は減産の影響を受け減少となりましたが、半導体や建機などが好調に推移し横ばいとなりました。

アジアは、韓国、インドなどが好調に推移した一方で、中国やその他地域の減少により、アジア地域全体では前年比36%減となりました。

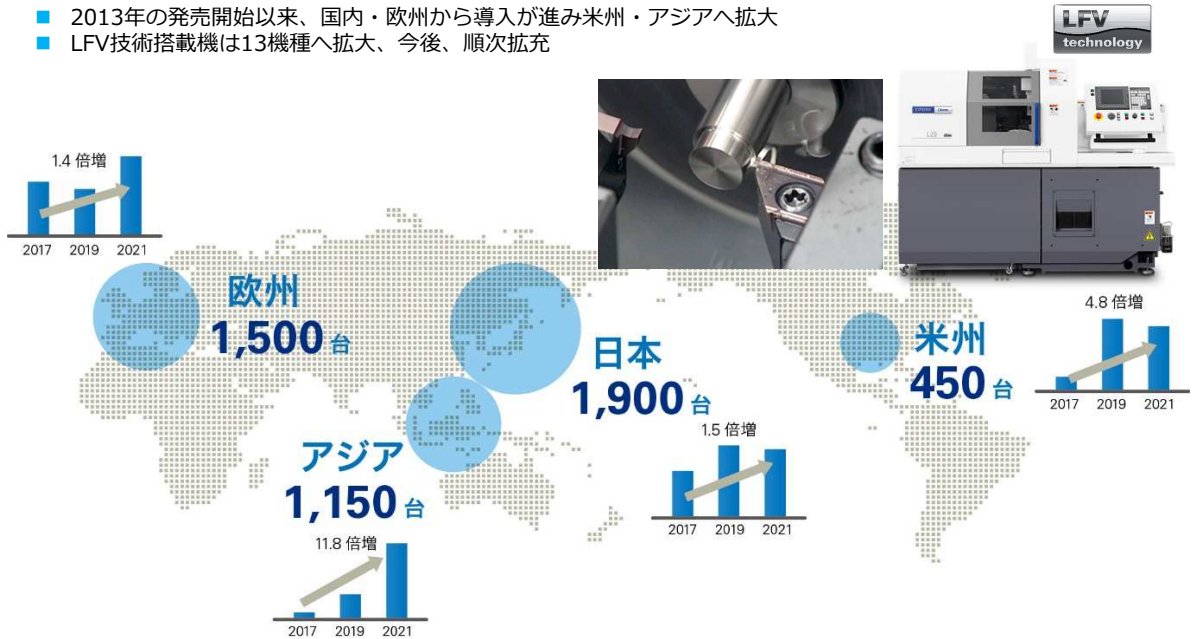
米州は、引き続き医療関連を中心に積極的な設備投資が継続しているものの、景気後退懸念の高まりを受け、前年比42%減となりました。

欧州においても景気後退懸念が高まる中、設備投資意欲に一服感が見られ、前年比64%減となりました。

11月、12月の受注は減少しましたが、1月の受注は欧州、国内を中心に反転し、半年ほど前と同水準の受注額がありました。

LFV技術搭載機出荷好調、累計出荷台数5,000台突破

- 2013年の発売開始以来、国内・欧州から導入が進み米州・アジアへ拡大
- LFV技術搭載機は13機種へ拡大、今後、順次拡充



続いて、工作機械事業の「加工技術による差別化」に向けた取り組みです。

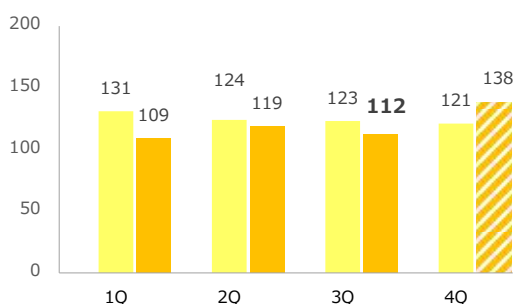
LFV技術は生産現場で課題となっていた生産効率の向上を助けるシチズンの独自技術として、2013年の発売開始以来、国内・欧州から導入が進んでいましたが、近年は米州・アジアでも導入が進み、2023年1月に累計出荷台数5,000台を突破しました。特にアジア市場では導入台数を大きく伸ばしており、今後も拡大に向けて取り組みを強化していきます。

第3四半期（10-12月）

- 精密部品 自動車部品は自動車メーカーの生産回復に遅れが見られており伸び悩み
水晶デバイスはIoT関連需要に一服感が見られ減収
小型モーターは医療関連や半導体関連が堅調維持も部品調達難の影響により僅かに減収
- オプトデバイス 主に照明向けLEDの需要が低迷し、減収

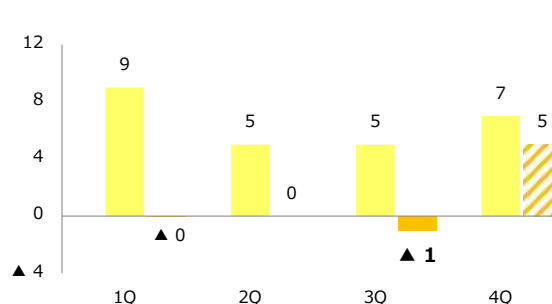
売上高(億円)

■ 2021年度 ■ 2022年度



営業利益(億円)

■ 2021年度 ■ 2022年度



デバイス事業について説明します。

売上高は112億円、前年比8.6%減、1億円の営業損失となりました

自動車部品は、自動車メーカーの生産回復に遅れが見られており伸び悩みました。また、水晶デバイスはIoT関連の需要に一服感が見られ、減収となりました。小型モーターは引き続き医療や半導体関連など幅広い分野からの受注を獲得していますが、部品調達難の影響を受けわずかに減収となりました。オプトデバイスは、特に照明用LEDの需要減少を受け減収となり、デバイス事業全体でも減収減益となりました。

シチズングループの温室効果ガス排出量削減目標がSBT認定を取得



「シチズングループ環境目標2030」温室効果ガス排出量削減目標
スコープ1、2 2030年度までに50.4%削減（2018年度基準）：1.5℃水準目標※に該当
スコープ3 2030年度までにカテゴリ1+カテゴリ11の30%削減（2018年度基準）

※「1.5℃水準目標」：世界の気温上昇を産業革命前より1.5℃に抑えることを目指す目標。4.2%/年以上の温室効果ガス排出量削減が求められる

16

気候変動への対応について説明します。

2030年に向けた当社の温室効果ガス排出量削減目標「シチズングループ環境目標2030」が、SBTイニチアチブから認定を取得しました。

中期経営計画期間の2024年度までの取得を目指していましたが、初年度である2022年度に取得することができました。

2022年度下期及び通期連結業績予想

2022年度 下期及び通期連結業績予想

CITIZEN

(単位：億円)	2022年度 11/14予想		2022年度 2/13予想		増減額	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,553	3,030	1,553	3,030	+0	+0
営業利益	106	230	106	230	+0	+0
営業利益率	6.9%	7.6%	6.9%	7.6%	-	-
経常利益	106	275	106	275	+0	+0
親会社株主に帰属する 当期純利益	73	200	73	200	+0	+0
為替レート	¥140/USD	¥136/USD	¥140/USD	¥136/USD		
	¥140/EUR	¥139/EUR	¥140/EUR	¥139/EUR		

■ 為替影響額 (1円円安の年間影響額)

売上高	USD	EUR	営業利益	USD	EUR
	+9億円	+4億円		+2.5億円	+2億円

18

下期及び通期連結業績予想につきましては、冒頭に申し上げた通り、前回から変更していません。

2022年度 下期及び通期連結業績予想 セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2022年度 11/14予想		2022年度 2/13予想		増減額	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高						
時計事業	776	1,510	776	1,510	+0	+0
工作機械事業	420	830	420	830	+0	+0
デバイス事業	250	480	250	480	+0	+0
電子機器他事業	105	210	105	210	+0	+0
合計	1,553	3,030	1,553	3,030	+0	+0
営業利益						
時計事業	71 (9.3%)	160 (10.6%)	71 (9.3%)	160 (10.6%)	+0	+0
工作機械事業	56 (13.5%)	112 (13.5%)	56 (13.5%)	112 (13.5%)	+0	+0
デバイス事業	3 (1.5%)	4 (0.8%)	3 (1.5%)	4 (0.8%)	+0	+0
電子機器他事業	2 (2.4%)	10 (4.8%)	2 (2.4%)	10 (4.8%)	+0	+0
消去又は全社	▲28	▲56	▲28	▲56	+0	+0
合計	106 (6.9%)	230 (7.6%)	106 (6.9%)	230 (7.6%)	+0	+0



CITIZEN

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
なお、億円未満は切り捨てになっています。

以上で私からのご説明を終了します。